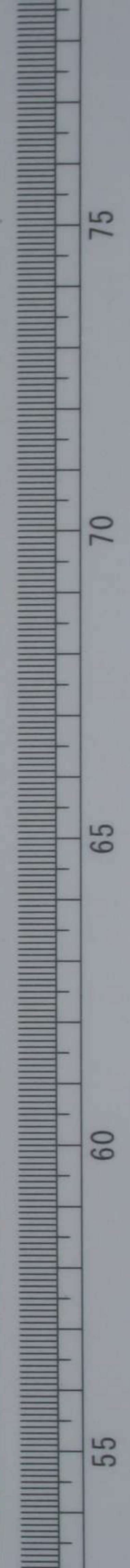


頭書  
大全

世界國盡

北亞米利加洲

四







古論武子



北亞米利加之事  
千四百年代の未  
の時代伊太里は  
武士といふ人  
羊の毛績ぐ食し

世界國盡卷四

北亞米利加洲

亞米利加は西の海に

新世界をなす

横たふ事北馬良

尾の岬より南の瀬

家の子かてー航  
 海の術と心得其志  
 を所九人ふらげ  
 獨を自から考ふ  
 小世界の状圓き  
 東北方は印度  
 の土地は西  
 の方ふも必じ地  
 りるをーとして説  
 立西班牙の王小説

戸の麻漑蘭一長  
 さ四百二十餘里  
 みるる二天海比理  
 の續は巴拿馬  
 地峽の長二十餘里

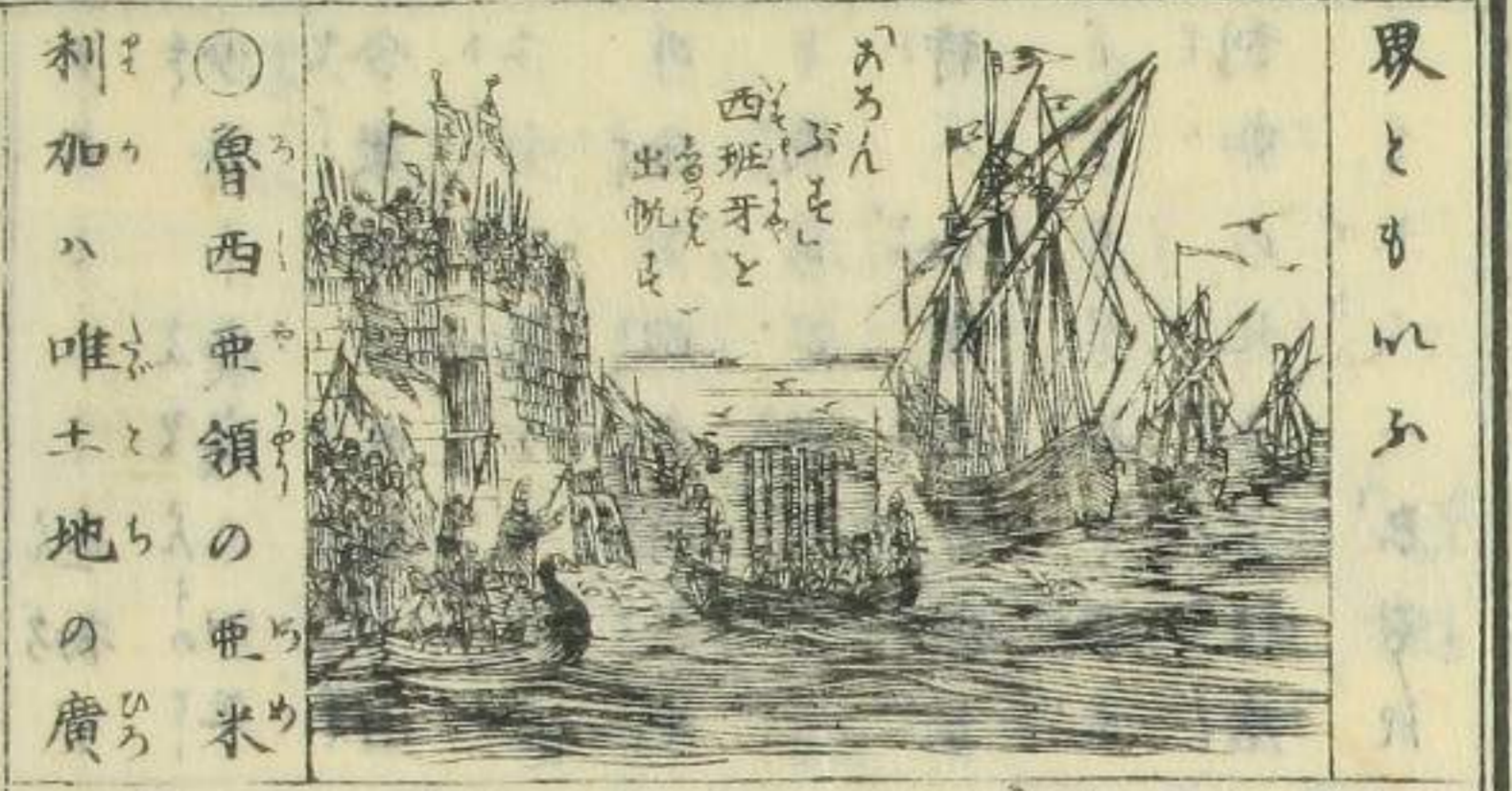
王妃の助立以  
 船三艘と仕立西  
 方とさして乗出せ  
 小果て陸地と  
 幾明く頃ハ千  
 四百九十二年即ち  
 我明應元年  
 歐羅巴諸國  
 の人類小往來  
 地面と見出し

東の河多羅  
 海は廻る  
 海は西大日本  
 北亞米利加  
 海は厚保留仁屋

世界國盡卷四

見出た不随ひ本國  
 人を移して新  
 地を開闢し得る所  
 の利潤も多し土地  
 の模様小由り地理  
 北學者ハ此と南  
 亞細亞阿非利加  
 羅巴と旧世界  
 い亞米利加と新世

北港より東西二  
 五百餘里世界三  
 の大洋あり北  
 まる北、真日西亞領  
 北亞米利加の西の隅



○魯西亞領の西米  
 利加ハ唯土地の廣

眼ともいふ

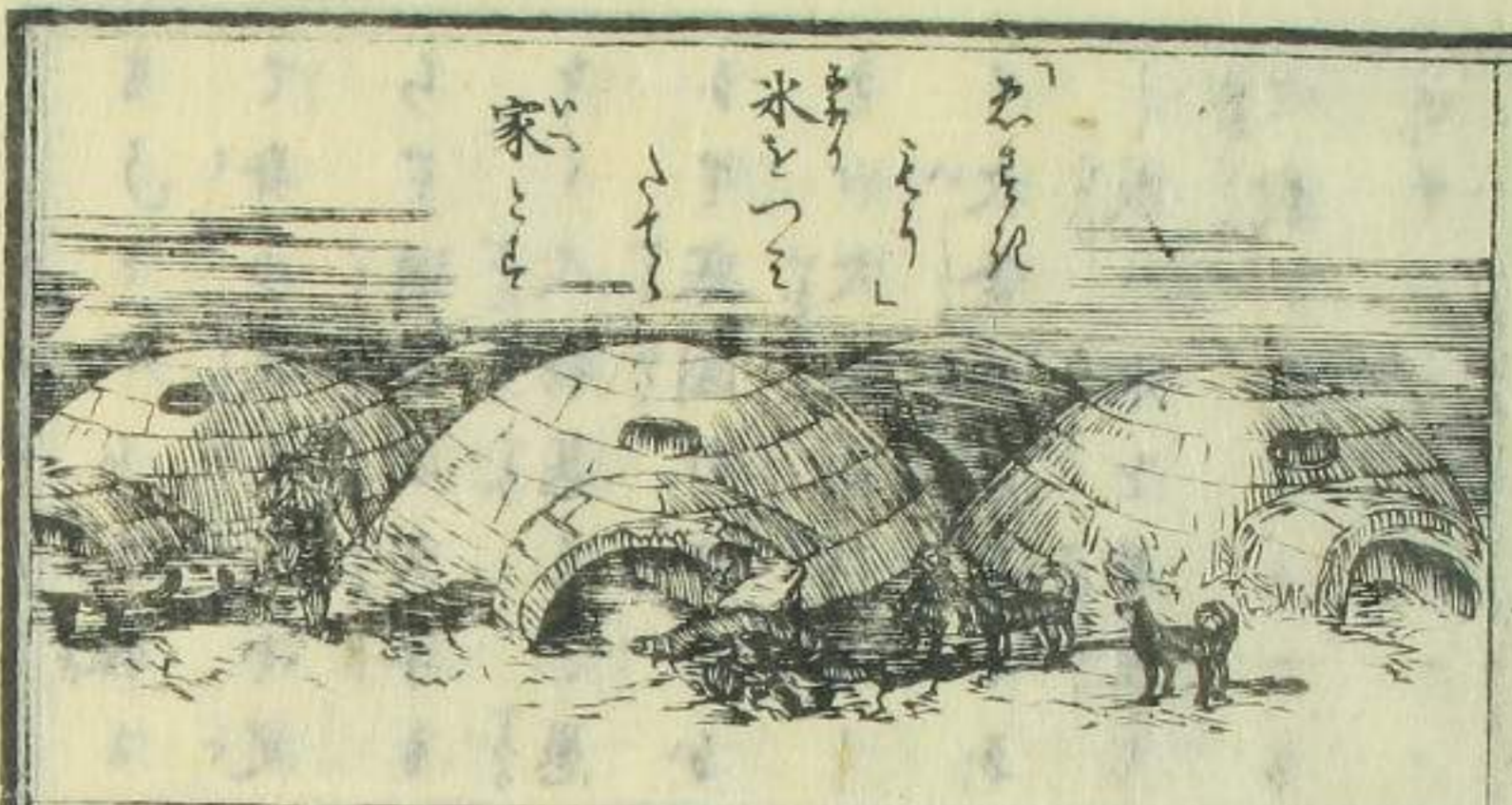
支北の地を廣く  
 水と人氏僅たは  
 やる業教しく土地瘠  
 人の稼漁樵の  
 本ものす人稼を

まのいふ産物  
少なり慶應三年  
合衆國の政府七百  
二十五萬どらら  
の金と以て此土地  
と残らば買取を當  
時ハ合衆國の領  
しりきと都て西米  
利加の北方に住居  
る土人ハ恐るに

具理陰蘭土伊漢  
蘭土と乃本主  
北極と北寒帯  
の冬と夏と秋  
雪や氷の古を地

もつといふ人種  
て身の長五尺不足  
らば通用の文字も  
る人物甚ると思  
る寒國のみと  
まは穴藏に住居し  
て衣食共小きか  
し或ハ氷と層立て  
穴藏とすらるり  
り

吹雪り噴火山寒ふ  
秋に紅葉色なり  
美吉利領の亞米利  
加北極海の邊  
南に鄰る合衆國



北亞米利加以南  
其一分乃其地  
其水北名不先此  
其氣四至其人氏僅十  
八萬處其地乃其家

又いんぢやんとい  
か人種はを即ち亞  
米利加の土人種と  
ハハのことあり昔  
ハハのんぶが亜米  
利加を見出せし前  
に此國に住つる  
者おて開闢以來の  
亞米利加人きれど

ハハの無知又盲の地  
氏好く南東は金田  
の地氣候次第不利  
中々人氏多く好む  
ハハの地境は湖水



も其性質殺伐ふ  
 て文字と知らる愛  
 さだめ一家もや  
 山阪と徘徊一矢  
 と以て獸と殺一肉  
 と喰ひ皮と着て生  
 涯と渡る者や生歐  
 羅巴人の亜米利加  
 へ移る一より此人  
 種と追拂ひ都會の

ぶる流る河は先通  
 海河は畔の喜別久  
 小築建たは碇是は  
 金城湯池乃る是は  
 世の流る亜米利加



地へ出ると許さば  
 追々其人の數も減  
 少するよ

の治部良苗多苗  
 少多へは孝河の流  
 潮里門出甲苗を河  
 中の流る軍形  
 交易場西より上

○金田の地ハ近來益々繁昌して諸愛小學問所も多ク往來の便利ハ蒸氣車並ニ湖水小浮べの蒸氣船ハ高賣の道も甚ら盛なり西洋人の説ハ此地も行くハ英吉利の手と離れて獨立を

小田羽河の如きみまのこ小田羽府を英吉利國の代友所北北極西方ハ太平洋の小浜も主利の香の河



久喜の別荘の場の圖

る又ハ合衆國へ歸して一の政府と

多羅海新見の國  
以果も一  
極。總奉行北粟  
利加。英吉利  
威勢以振ふ根本

世界圖畫卷四



○前ふりいゝ如  
く亞米利加洲と見  
出せし後ハ歐羅巴

金田地方此所領

なり

昔々天のふと土地廣

く平土の深と民多

一億の多し女生

の諸國一を家と移  
一三百年むりきの  
間小人別も追々増  
今合衆國の東  
海岸の地ハ英吉利  
の領分れて人の産  
業も繁昌する小付  
本國の政府も運  
上を取上げんとせ  
し小領介の町人百

雲出ぬ象富強弱

賞不肖と乃越は善

多れは耳目鼻口

四枝の官是非曲直

を分別し善も從ふ

姓どもの言分不億  
兆の人民天地の間  
は生も貧富強弱の  
別あやゆらん男ハ  
男一人か女ハ女  
一人なり他人の妨  
と為さどもハ亦他  
人ハ妨げらる  
の理ハ今此地ハ  
居て銘々の家業と

本心と此をいすは  
能く一種無類万物  
の性を具する天の性  
可古不易以一大義  
之を以て力とす

營之銘々共の申合  
せおく國中の取締  
を行届き本國の世  
話を受けども自ら  
から一國を治るは  
けの覚悟ある愛  
政府ハ是色々命  
と下し謂ひおく運  
上と取立んとハハ  
らざる世話を為し

役仕人の執我儀  
我自由天の道理  
其國報  
丹心誠心

て下々の家業と妨  
ぐものよからど人  
の物と奪取て上の  
用と達せんとも  
不埒の舉動かをた  
しひ國王政府の命  
しとともみせと兼  
知し難しとして孫々  
以て獨立の旗揚ふ  
変定せし頃ハ千七

如不羈獨立乃誓を  
留すともせし其  
北亞米利加の十三州  
乃本國の政府より  
我光を以て誓し

百七十五年即ち我  
安永四年なり



名將  
わんてん

英の本國より軍  
勢と差向け威光と  
以てあもと鎮めん

る石をたてたる税  
しと告げん  
便多し民を備  
天然の自由を越え  
し中しる威光を我

とる色でも亜米利  
加人の固る必死  
小覚悟定め老若男  
女獨立の師と聞て  
悦むざる者なく町  
人、天秤棒と持て  
市を起し百姓ハ  
鉏鋤と携へて如  
く駈出さすどの勢  
りさば中々徳便の

遺恨ある遺水也  
恨より心を頼む  
所、天地の理に  
あ、永々年の秋十  
三海の石代人軍士

扱出来む千七百七  
十五年四月十八日  
まきいんとんとい  
ふ愛の小戦おて始  
て血と流し五月小  
いぶんけり山は戦  
争の至みまうを一  
國の騒乱とかりわ  
いんとんと推して  
惣大将と為し翌年

以連判状世界一示  
と檄文の英吉利王  
の罪状責免自  
建し一合衆國武  
器兵糧之に民

七月四日ハ四十  
 八士獨立の檄文と  
 布告して人氣益振  
 ひ昼夜の戦争或ハ  
 克ち或ハ負け千辛  
 万苦其有様ハ筆ハ  
 盡し難し人の誠心  
 天の恩恵遂ハ勝利  
 と得て英吉利と和  
 睦結び國政を定て

数多の敵を海を越  
 して新軍を引替（せり）  
 たり。極端に飛龍の  
 勢を打ち破るを撓す如  
 鉄石の如く海を拓て

共和政府と建てわ  
 るんとんと大統領  
 の職小任して一大  
 國の基と開ききり



國の死を先とし生命  
 得て自由と理屈  
 して生かさんと李國を報  
 了死にたんと一死決  
 して七年の月の日

士界國畫示日

十二

此度亞米利加の起るに誰一人の起るに頭取もなく國中の人一般も獨立と望み婦人小兒も至るまじく其氣象と備へざるはとかれを英吉利よるさし向る官軍の勢ふても荒ぶる

以收守知勇義の名  
を子孫傳へし流る血  
乃河骨の山七十七戰  
の艱難を消し忘る  
大勝利目如度あり

一はとするべし既に  
小戦争の起る以前  
のめとあをむふも  
てんといふ處あり  
折しも冬の日の町の  
子供大勢あき雪と  
集り家と作を達磨  
とみしらつとど  
て戯を居るも一處  
官軍の歩兵来り

「英吉利」と和睦結  
び新條約を素因  
き政を体ありし主君  
あり天は天下れり  
下たり四年交代乃



何心なくみよを妨  
げしむと度々かそ  
しりバ子供等大小  
憤ふて英吉利の  
將軍がいしの外出  
まの所を待受け將  
軍へ訴ふとめを  
と呼掛けし將軍  
のさ笑ひ汝等も親  
小謀反を教へられ

大統領上院下院の呼  
議院一國中の便  
便儀り定免し法律  
の威行を極む  
以て進むるの富百

て来し来しとやと  
いふ子供等ハと  
くもれ氣色かく將  
軍とみよにつけ我  
々共ハ人の指圖受  
けて茶をし者ハ  
らむ今日將軍へ訴  
ふり余の義から  
我等嘗て官軍へ  
對し失禮せし覺り

工製作高賣は英吉  
利と肩並し文教  
校藝學校を佛蘭西  
國に有し地  
は産物ハ穀獸類

あらざり歩兵の  
人々謂もかく我等  
の自から作を雪  
は達磨と踏崩し池  
の氷と破て人の衆  
と妨げし由を其  
乱暴と止むもど  
笑て答へ却て我  
等と謀及人々  
唱へ更不取合を差

綿燐そ葡萄菜菜  
甘露金銀銅鉛鉄石  
炭凡世間の日用する  
物一も不足たり衣  
食を逐ふ人欲情求

圖役の人へ告せど  
も矢張同様の挨拶  
の之昨日も雪の家  
と毀ちしあし既小  
三度不及そ最早  
其終さし置き難く  
思ふ小付此上ハ唯  
大將軍の裁判と仰  
ぐのこと恐る憚る  
所もかく辨説明ら

先得易き活計  
たつぬる人の罟  
日よ暮るる月之増  
人口云々有得新  
地并炭おろし

か小述のまけもバ  
いしもの氣象小  
感心一流石亞米利  
加の自由の風小浴  
したる小兒等勇ま  
し心うか以後不  
得なり歩兵ゆら  
必む仕置をせし  
としての舉動と譽て  
返せしとの話ゆを

漸く利く國堺東  
西一子云百里北と南  
七百三十三海  
の年飲ん今も乃敷三  
倍一三年六州並



合衆國の東海岸小  
ハ八世留父の外子

立つる乃中心を和  
新領府の一界  
政事堂高さ二百八  
十尺御門橋岡山魏  
ととて結構あり

七十七  
 國  
 書  
 精  
 1721

あふをこんふひら  
 びやむら  
 ふ等数多の都會  
 文藝盛不  
 器物製造商賣  
 繁昌の模様ハ英吉  
 利佛蘭西小異から  
 南の諸州ハ米  
 麥綿烟草等の産物  
 多し都て東北諸州

とて海を西に世界  
 獨立一國を  
 大玉の議政為  
 政の源を基ハとて  
 大とを理より和  
 新



政事堂の圖  
 州府

ハ商賣と勉め南方  
 其農業以励といふ

頼むる北の方百里  
 層々八女留久人  
 口ん百有由中一  
 乃交易市場之  
 美吉利の論政府

世界國盡卷四  
 十七



世界  
國  
盡  
卷  
四

○女喜志古ハもと  
西班牙の領カ  
一ガ千八百二十一  
年獨立して合衆政  
府を建てて千八百  
六十四年佛蘭西ハ  
攻滅され佛の差因  
小くまきりこせや  
んといふ人とて  
國帝とせしむる  
僅

海ノ海岸一列  
女喜志古北の界  
合衆國南東一横  
女喜志古灣



二年小して慶應三  
卯年國中又乱きて  
新帝と殺しし

加界一南北  
凡八百里東西三百  
二十里人口八百二十万  
土地一出生産

世界  
國  
盡  
卷  
四

金類の中に最も多く不足
 金類の中に最も多く不足
 銀を東洋諸國
 銀を東洋諸國
 其通用銀と積む
 其通用銀と積む
 日本へ洋銀を
 日本へ洋銀を
 唱ふものを矢や
 唱ふものを矢や
 張りきのどう
 張りきのどう
 らの西海岸に
 らの西海岸に
 女喜志古の
 女喜志古の
 小赤保留古とよし
 小赤保留古とよし

物々  
 衣食  
 日用  
 不足  
 金と銀  
 世界  
 中  
 富  
 利  
 用  
 源  
 汲  
 竭

物々衣食日用  
 不足  
 金と銀世界  
 中  
 富利  
 用源汲竭



寄りよし
 寄りよし
 必ずあらずに立ち
 必ずあらずに立ち
 港に飛脚船が
 港に飛脚船が

如く淵を北に政府の
 如く淵を北に政府の
 基因にて民の信を
 基因にて民の信を
 仰ぎ淡く志を
 仰ぎ淡く志を
 政治を治する
 政治を治する
 國の乱民乃は軍に化す
 國の乱民乃は軍に化す

○中亞米利加之諸國も元ハ西班牙の領介カモ一ガ千八百二十一年本國の手を離れて暫くの問女喜志古小興ミ一二年を経て獨立の政府トカモ其後又各國相分きて各合衆政府と建てる

一 進なり  
 女喜志古のみま  
 つく教箇國ハ中亞  
 米利加之地取上りて割  
 據自主の体有る

産物ハ金銀銅鉄材  
 木藥種多  
 ○古論武子亞米利加之護明せ一以前歐羅巴人の往來して地理風俗を知りて處ハ唯其本國の近傍ハ伊須蘭土阿非利加洲の北岸小亜細亞亞火

割て身よ分るれば  
 各守り力なく彼我  
 因力有約束一合ハ  
 はたすハ一ツ被せ  
 以味可ハ勢ヲ流

世界地圖 卷之四



屋の海岸を遠方  
 ハ後印度の即ち  
 左の圖中、白き處  
 あり、其外ハ更不知  
 らん、唯此世界ハ圓  
 きものなりとの理  
 を信じて西の方小  
 も陸ゆふんと思ひ  
 案小違ふにみよと  
 見出し、さあ、故

北長江行末の治乱  
 の夜々(夜々)中  
 亞米利加の東方  
 群島、西印度印  
 度と所縁有る島を

小猿和土留の嶋と  
 見ても印度の地續  
 と思ひ、いと、か  
 一、其時嶋人の驚  
 一方あり、老若男  
 女濱邊、集る三艘  
 の船、小帆、さ、様  
 と見、く、あ、白、さ、翼  
 と廣げ、る、大、化、物  
 あり、と思ひ、し、

西の印度と名けし  
 昔明應初年の迄  
 世よ、存、ん、高、丸、古、論  
 武子西の、世界、其、様  
 した、始、り、具、え、し

世界圖畫卷二日



七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十

猿和土留亞米利加  
 たり元心まじ見は  
 太平海の何んとは  
 夢を知らぬ人の島  
 を印度の端と認め

西印度の島の數九  
 一千里を氣候冬  
 多ハ熱一地球味肥  
 産物多一人人口合  
 せて四百萬人此内  
 六分の一ハ歐羅巴  
 の人種ホて其餘ハ  
 黒人なる又黒白相  
 混トさるものも有

一人の告げし由來  
 西に印度の名  
 有る天叢明人此卷  
 と島の名を共傳

地ハもと西班牙の領分カモ一ヶ今ハ獨立國ホテ皇帝ハ黒人ナリ邪麻伊嘉ハ英吉利領アリ久場ハ西印度諸島の中ホテ最も大ハカモその都ト兼羽奈ト以テ西班牙ホモと領主馬濱ハ小

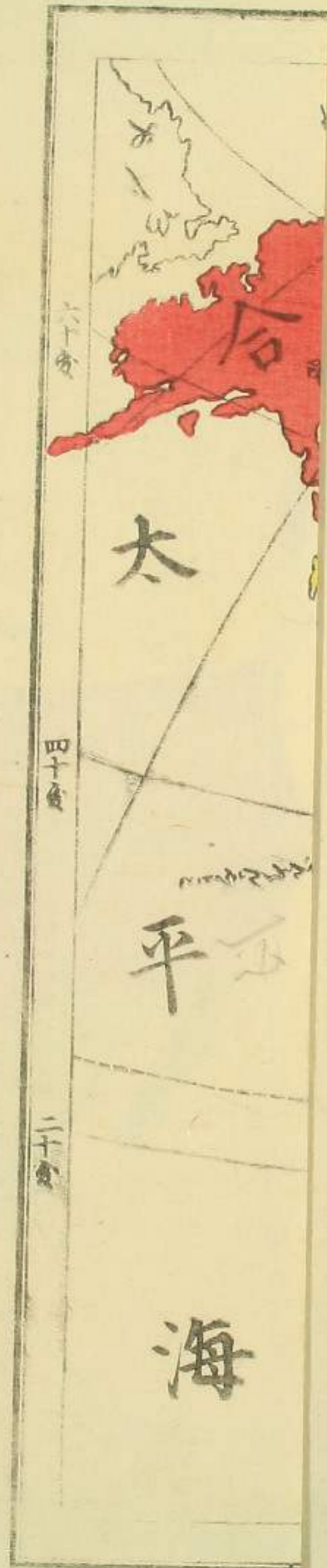
了千萬歳五嶋の敷  
の多ク中一世界ハ  
身之慣水一石五  
擇地邪麻伊嘉久  
場馬濱時候熱

き嶋の一群ホテ其數五百ハモ和土留モ其一嶋アリ



此邊の芭蕉ホハ實と結び又むんかつ

冬初ハ土地の産物  
豊トモ衣食足トモ  
そのナリ砂糖骨  
氷錦畑子擇地ニ多  
此芭蕉の實久場

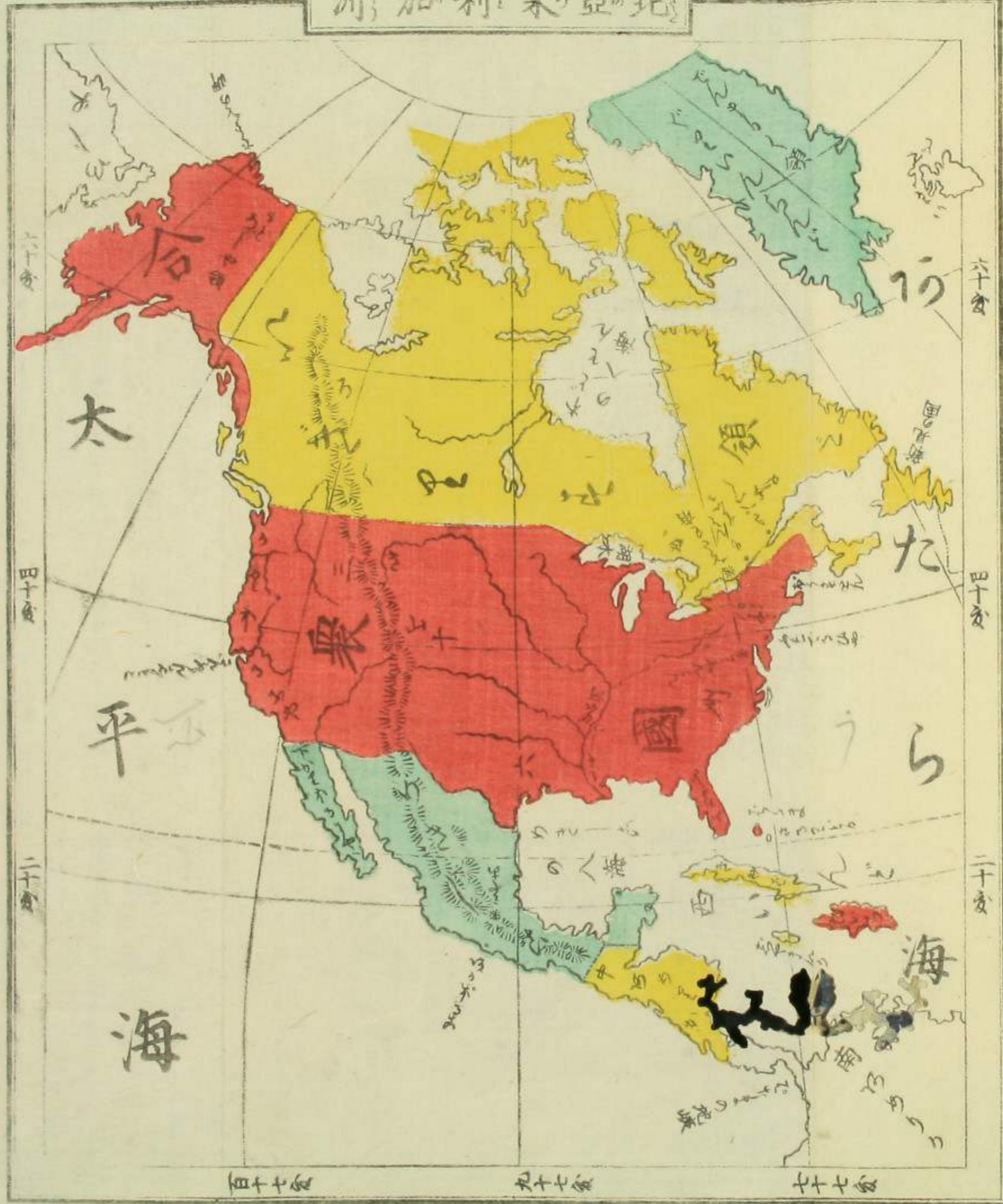


ぶらとといかちのめ  
 何色も其味より

世界多類の名石  
 松子の如  
 芭蕉

世界多類の名石  
 松子の如  
 芭蕉

北亞米加利洲



四二五



松子

Handwritten text in cursive Japanese calligraphy, likely a poem or commentary related to the pine cone illustration above.

